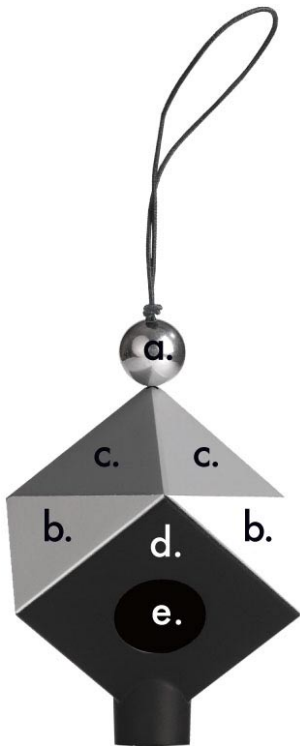


***SILKYPIX* & SpyderCUBE**



チュートリアル: スパイダーキューブと SILKYPIX を使って 写真を適切に調整する 5 つのステップ



Before



After

スパイダーキューブを使うことで、撮影時にカメラ側の設定で調整しきれなかった微妙なズレを、RAW 現像時にとっても簡単に補正することができる。ここでは、汎用 RAW 現像ソフト SILKYPIX を例にとってその調整方法を紹介しよう。スパイダーキューブを使って撮影した写真を SILKYPIX で適切な状態に仕上げることは、以下のようなとても簡単な 5 つのステップで実現できる。

- ステップ 1: RAW データを読み込んで、スパイダーキューブを入れて撮影したコマを選ぶ。
- ステップ 2: 露出補正ツールで明るさを決める。
- ステップ 3: グレーバランスツールでホワイトバランスを決める。
- ステップ 4: ブラックスポイトツールで黒レベルを決める。
- ステップ 5: 調整したコマのパラメータをコピーして同一の光源状態のに貼り付ける。

実際の操作も画面上部に並んだ 3 種類のスポイトツールで、ホワイトフェース、グレーフェース、ブラックトラップをポンポンと指定していただけなので、とても簡単だ。では実際の操作手順を見てみよう。



図 : 3 種類のスポイトツール

ステップ 1: ファイルを開いて、スパイダーキューブを入れて撮影したコマを選ぶ。

まずは、スパイダーキューブを入れて撮影した RAW データとその RAW データと同じ光源状態で撮影された RAW データを読み込む。読み込みが終わったら、スパイダーキューブを入れて撮影したコマを選択してプレビュー表示モードにする。

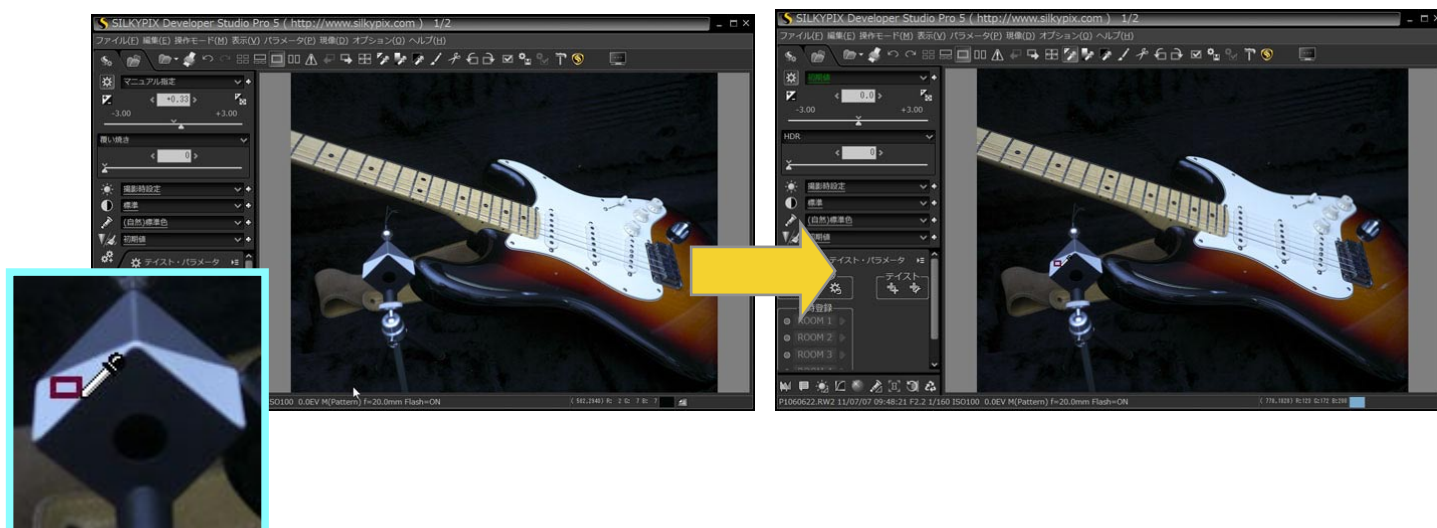


図: このようにスパイダーキューブを写しこんだ写真で調整を行う。

ステップ 2: 露出補正ツールで明るさを決める

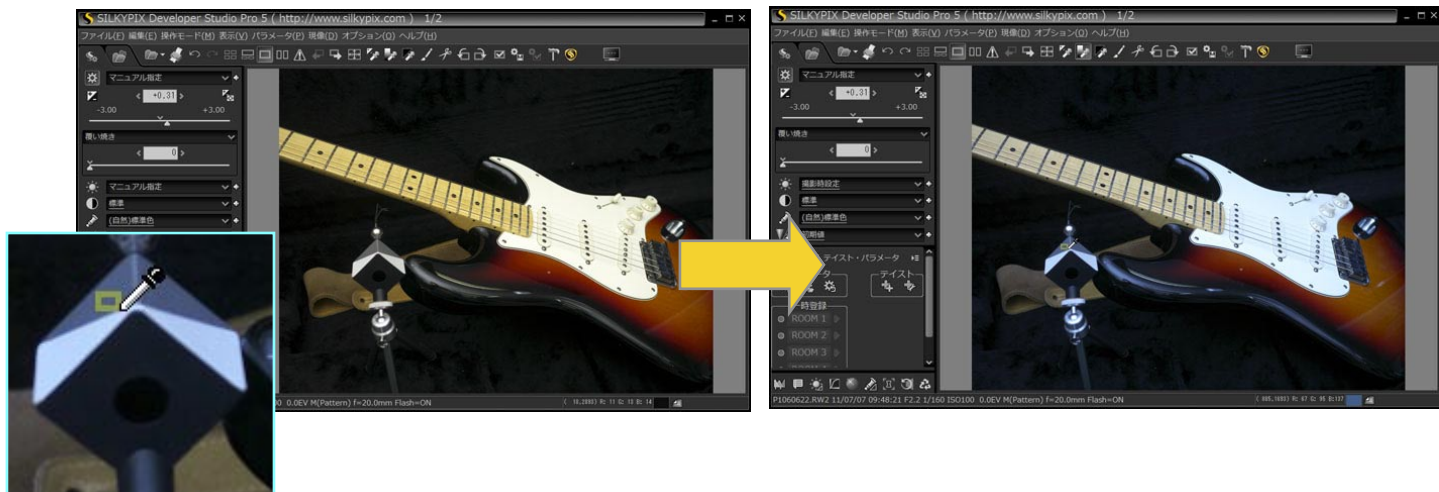


ここからは、先ほど選択したスパイダーキューブを入れて撮影したコマに対する調整作業になる。まずは全体の明るさを決めるために露出補正ツールを使う。露出補正ツールは3つ並んだスポイトの左のボタンだ。この露出補正ツールをクリックして選択し、スパイダーキューブのホワイトフェースの明るいほうの面を小さくドラッグして選択する。どちらの面が明るいかで迷ったら、クロマボールを見て光源の位置から判断するといだろう。



ステップ 3: グレーバランスツールでホワイトバランスを決める

次に全体の色味を決めるためにグレーバランスツールを使う。グレーバランスツールは3つ並んだスポイトの真ん中のボタンだ。このグレーバランスツールをクリックして選択し、スパイダーキューブの露出補正ツールでスポイトした明るいほうの面を小さくドラッグして選択する。

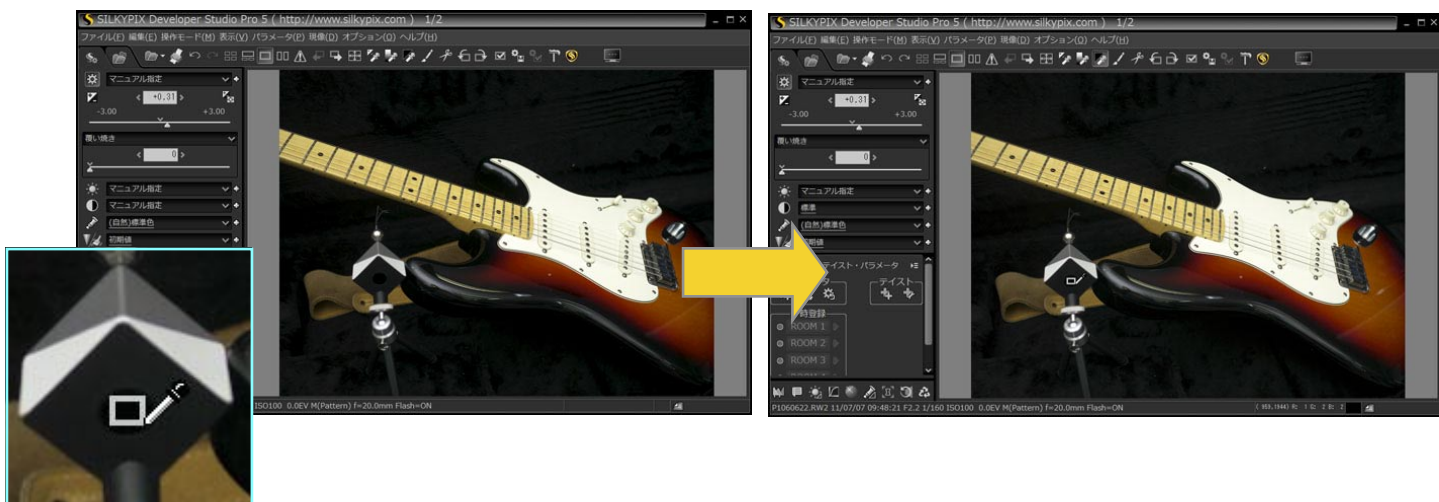


ステップ 4: ブラックスポイトツールで黒レベルを決める

最後に全体の色味を決めるためにブラックスポイトツールを使う。ブラックスポイトツールは3つ並んだスポイトの右のボタンだ。

このブラックスポイトツールをクリックして選択し、スパイダーキューブのブラクトラップの穴の中を小さくドラッグして選択する。

これでこのコマに対しての調整作業は完了だ。



ステップ 5: 調整したコマのパラメータをコピーして同一光源のコマに貼り付ける

ここまでの手順で、露出・ホワイトバランス・黒レベルの3つが決まり、適切な現像パラメータを作ることができた。このパラメータを同じ光源状態で撮影したコマにコピーして貼り付ける。

まず前のステップで調整したコマを選択している状態で、[編集メニュー]>[現像パラメータのコピー (Ctrl+C)] を選択。次に貼り付けたいコマを選択し、[編集メニュー]>[現像パラメータの貼り付け (Ctrl+V)] を選択する。これですべての操作が完了し、写真は適切に調整されている状態になっているだろう。



これらの手順で得ることのできる現像パラメータでは、あくまでも光源の色あいなどを排除したニュートラルな状態の写真になる。

言い換えれば、夕焼けで朱に染まった風景や、電球や暖炉の温かみのある光の雰囲気は取り除かれてしまうということになる。

だが、アーティスティックな表現を行う場合にも、まずこのようにニュートラルな状態にしてから味付けをしていくことで目指している仕上がりに迷わずたどり着くことができるだろう。



編集前



編集後